

宮柊二記念館だより

2025.3.20

第 62 号

発行 宮柊二記念館

TEL・FAX

025-794-3800

第30回 宮柊二記念館全国短歌大会表彰式



2024年11月16日(土) 第30回宮柊二記念館全国短歌大会表彰式

初心者のための短歌講座

宮柊二記念館では、平成九年から短歌教室を開催しています。毎月第二日曜日に宮柊二記念館に隣接する堀之内公民館に集まって歌会を実施しています。参加者は毎年少しずつ変わりますが、初めて参加する人から長年参加を続けている人まで様々な経験の方々が一緒に短歌を楽しんでいます。

今年度、この短歌教室とは別に新たな取組として『初心者のための短歌講座』を始めました。「短歌に興味はあるけれど、どうやって作っていくのかわからない。」「いろいろな短歌を読んでみたい。」など、初めて短歌に触れる人、初めて短歌を学ぶ人のための短歌入門講座です。

六月二十三日・七月七日・七月二十一日の三回、日曜日の午前中に一回二時間、三回合わせて六時間の講座です。「三回とも参加いただければベストですが、三回のうち都合のつかない日は欠席いただいてもかまいません。一回でも二回でも参加いただき、短歌に出会ってみませんか。」と宮柊二記念館ホームページ、市報うおぬま、FMうおぬま等で呼びかけたところ十七名の申し込みがありました。

指導者は、魚沼市在住の内山真由美さんと眞島陽子さんです。お二人ともコスモス短歌会に所属するとともにコスモス魚沼勉強会の一員として長年短歌に親しんでこられました。

第一回講座のテーマは『短歌の基礎知識』です。「五・七・五・七・七」などの基礎的な知識や短歌の歴史などを学び、現代短歌を鑑賞しました。

第二回講座のテーマは『表現の工夫』です。第一回のおさらいと質問への回答から始まり、比喩や表記方法の選択などを学び、最後に現代短歌を鑑賞しました。

第三回講座のテーマは『短歌を作ってみよう』です。まず、第二回のおさらいと質問への回答、そして、名詞の効果について学び、現代短歌を鑑賞した後、最後は短歌創作タイムです。完成した短歌は、第三十回宮柊二記念館全国短歌大会の応募用紙に清書しました。

「初心者のための短歌講座」は、令和七年度も開催予定です。

報告

第三十回宮柵二記念館全国短歌大会

応募総数 一〇、四一〇首

【一般部門】

選者賞（久々湊 盈子 選） 羽衣はたんすの奥にしまひ込み妻はそのまわが側にゐる
 選者賞（鈴木 竹志 選） 飛びとびで小屋番すれば飛びとびに花が移りぬ越後駒ヶ岳に
 魚沼市長賞 鳥渡るダム湖豊かな弧を持つも離散の悲話を村史に残す
 新潟日報社賞 わたくしは昭和原人キャッシュシユレスの進む時代を漂いており

林 建生 愛知県岡崎市
 磯部 剛 新潟県魚沼市
 請関くにとし 埼玉県飯能市
 添島貴美代 愛知県名古屋市

【ジュニア部門（小学生の部）】

最優秀賞 目があうとにつこりわらう赤ちゃんはずっとまわってたばくの弟
 選者賞（久々湊 盈子 選） 夏休みプールの水が冷たすぎばくの口びるいつもむらさき
 選者賞（鈴木 竹志 選） ぼくじゅうのにおいいっぱいすいこんで「今日も集中！いい字を書くぞ」
 魚沼市長賞 夏休み、パパと虫とり、でかけたよ、ぼくよりひつしな、大きな子ども
 新潟日報社賞 尾瀬の夜まつくらやみにみなはしゃぐひかるシカの目「ギギ」とりの声

高橋 結良 魚沼市立広神東小学校
 渡辺 悠月 魚沼市立湯之谷小学校
 瀬下ゆいか 魚沼市立湯之谷小学校
 櫻井 潤紀 魚沼市立湯之谷小学校
 酒井 勇菜 魚沼市立須原小学校

【ジュニア部門（中学生の部）】

選者賞（久々湊 盈子 選） 夕ご飯空いてる席は予約済み時々帰る姉貴のために
 選者賞（鈴木 竹志 選） 水の色木々の変化はいつもちがうそれが私のふるさとの土手
 魚沼市長賞 コンチェルト僕を掠める音の粒十九世紀のワルシャワの旅
 新潟日報社賞 友達に推しとかコスメに夢中だが私の頭ははてなでいっぱい

上野 菜々 長岡市立大島中学校
 関 優希 魚沼市立小出中学校
 小林 斗和 慶應義塾普通部
 木村 江里 新潟県立燕中等教育学校

【ジュニア部門（高校生の部）】

最優秀賞 天使みたいばあばはいうけどほんとねばあばの前だけ天使になるんだ
 選者賞（久々湊 盈子 選） 初夏の朝ペーパームントの風通るテニス部員の半そでの白
 選者賞（鈴木 竹志 選） 覚悟決めの前に立ち息を吐くブレッツシャーさえ矢に乘せて射つ
 魚沼市長賞 真夜中の流星群に魅入られて色どられてく記憶の記録
 新潟日報社賞 順位死守定期試験の様相はノルマンディーのドイツ軍なり

須藤菜々花 神奈川県立湘南台高等学校
 鈴木 悠真 長岡工業高等専門学校
 池知夕季絵 神奈川県立七里浜高等学校
 星野ひゆう 新潟県立小出高等学校
 本間 蓮 長岡工業高等専門学校

第30回短歌大会 応募状況

区 分	応募作品数	応募者数
一 般 部 門	1,074 首	490 人
ジュニア部門	9,336 首	4,897 人
小学生の部	1,480 首	726 人
中学生の部	4,187 首	2,142 人
高校生の部	3,669 首	2,029 人
総 数	10,410 首	5,387 人

さて、令和七年度・第三十一回宮柵二記念館全国短歌大会は、五月一日から受付を始めます。締め切りは、一般部門七月三十一日、ジュニア部門九月五日です。準備ができ次第、宮柵二記念館ホームページに実施要項・応募用紙を掲載いたしますのでご利用ください。選者は、三枝浩樹さん（沃野）と田中愛子さん（コスモス短歌会）にお願いしました。大勢の皆様のご応募をお待ちしています。

第三十回宮柵二記念館全国短歌大会は、久々湊 盈子さん（合歓）、鈴木 竹志さん（コスモス短歌会）を選者にお迎えして実施しました。応募総数は、一般部門・ジュニア部門合わせて一〇、四一〇首でした。多くの皆様方からの応募に感謝申し上げます。表彰式は、令和六年十一月十六日、宮柵二記念館に隣接する魚沼市中央公民館（堀之内公民館）大ホールで行いました。会場には、多くの方々からおいでいただきました。また、大ホール会場に入りきれなかった方からは、中ホールで行ったライブ配信をご覧いただきました。なお、表彰式の様子は、魚沼市公式YouTubeチャンネルにて配信しております。宮柵二記念館ホームページよりご覧ください。第27回大会（選者川野里子さん・宮里信輝さん）・第28回大会（選者大下一真さん・水上比呂美さん）・第29回大会（選者沖ななもさん・橘芳園さん）についてもご覧いただけます。

【選者のことば】

鈴木 竹志

長くコスモス短歌会に所属していますが、この度宮柵二記念館短歌大会の選者の任に就くことになり、大変喜ばしく思っています。と同時に任の重さによる緊張感も並大抵ではありませんでしたが、多くの方々から寄せられた短歌作品に励まされて、何とか選を終えることができました。心より感謝申し上げます。

中学生、高校生の応募した短歌の数には大変驚きましたが、五句三十一音の定型を用いてそれぞれの青春を詠んでいるとつくづく思いました。もちろん、舌足らずな短歌、投げやり気味の短歌もありましたが、一つ一つの作品は作って作品にしたいという前衛短歌運動が盛んなときだった。寺山修司や佐佐木幸綱、塚本邦雄、岡井隆、春日井建といった歌人の名前を聞かれたことがあるかもしれない。日本の各地でシンポジウムが開かれ、熱心にこれからの短歌はどうあるべきか、といった議論が戦わされていった。高校時代に熱心にならなければならぬ短歌を作ったことが結果的にわたしの短歌の基盤になっていると思っている。石川啄木でも与謝野晶子でも若山牧水でも、もちろん、現代に活躍している

た人のものなのです。作った人一人一人の現在が何かしら反映されていることは間違いありません。言葉を用いて表現することの楽しさを感じてもらえたらと思います。

投稿歌の選歌をするとき、私はいつもわくわくします。たくさんの歌の中から、私の心に響いてくる歌にきつと会えると信じているからです。今を生きる老若男女の声に耳を傾け、ああそうだなと思える歌に出会うことは本当に嬉しいことです。

私は、短歌を詠むことに行き詰まった時には、宮柵二先生の歌集を読むことにしています。宮先生

鈴木 竹志 (すずき たけし)

1950(昭和25)年 愛知県刈谷市生まれ。
1973 年より愛知県立高等学校国語科教諭、2011 年退職。以後いくつかの大学で非常勤講師を勤める。
1973 年コスモス短歌会入会。
現在、「コスモス」編集委員、選者。
コスモス短歌会愛知支部代表。
現代歌人協会会員。日本文藝家協会会員。中部日本歌人会顧問。中京大学非常勤講師。
歌集に『流覧』『游渉』『聴雨』。評論集に『同時代歌人論』『歌を読む喜び』『孤独なる歌人たち』『高野公彦の歌世界』。



【選者のことば】

久々湊 盈子

わたしが短歌をはじめて作ったのは高校生の頃。もともとお正月になると家族揃って「百人一首」をするのが恒例であったから、五・七・五・七・七という定型に馴染んでいたせいもあって、たまたま入った文芸部で短歌を知ってから夢中でどんどん作るようになった。十七歳の時には生意気にも佐佐木信綱先生の主宰する「心の花」という短歌結社に入会。ちょうどその頃は短歌の世界では伝統的なアララギの写実にあきたらず、もっと自由にさまざまなこと

を作品にしたいという前衛短歌運動が盛んなときだった。寺山修司や佐佐木幸綱、塚本邦雄、岡井隆、春日井建といった歌人の名前を聞かれたことがあるかもしれない。日本の各地でシンポジウムが開かれ、熱心にこれからの短歌はどうあるべきか、といった議論が戦わされていった。高校時代に熱心にならなければならぬ短歌を作ったことが結果的にわたしの短歌の基盤になっていると思っている。石川啄木でも与謝野晶子でも若山牧水でも、もちろん、現代に活躍している

歌人の歌でもいいが、好きになった歌人の作品をどんどん読んでみることをお勧めしたい。図書館に行けばいろんな歌人の歌集や全集が揃っている。宮柵二の短歌は初心の間は、やや手ごわいだろうが、いつかは挑戦して、ぜひ読んでいただきたいものと思っている。

久々湊 盈子 (くくみなと えいこ)

1945(昭和20)年 上海生まれ
1 歳の春、両親の故郷長崎に引揚げる。父親の仕事の関係で広島県三原市、愛知県に住む。20 歳の時に両親が亡くなり、長姉のいる東京へ。23 歳で結婚。夫の父親(湊楊一郎)の俳誌「羊歯」(月刊)を編集・発行百号で終刊とする。短歌は十代から作っており、17 歳で「心の花」入会。10 年のブランクの後、加藤克巳の「個性」に入会、終刊まで運営委員。
「合歡」主宰。現代歌人協会会員、千葉県歌人クラブ会長。東京新聞「房総歌壇」選者。歌集に『熱き神話を』『黒鍵』『家族』『射干』『あらばしり』『紅雨』『風羅集』『鬼龍子』『世界黄昏』『麻婆よし』『非在の星』がある。ほかに鑑賞『安永路子の歌』百首。インタビュー集『歌の架橋』I II、共著『今こそ読みたい近代短歌』など。最新刊は『加藤克巳の百首』(ふらんす堂)。



令和6年度事業① 令和6年度に実施した事業をご紹介します。

宮柊二記念館－施設見学等

魚沼市立堀之内小学校3年生

7月9日、魚沼市立堀之内小学校3年生35名が来館しました。『堀之内小学校卒業式、中学時代に描いた水彩自画像、宮柊二・滝口英子結婚式、自宅近くで撮影した家族写真、堀之内小学校歌碑建立式典』などいろいろな写真で宮柊二の生涯をたどりました。そして、堀之内小学校の歌碑の短歌について学習したのち、「宮柊二 言の葉の泉」展を見学しながら、自分の好きな短歌を探しました。

魚沼市立魚沼北中学校2年生

10月11日、魚沼市立魚沼北中学校の2年生18名が宮芳平デッサン展見学ののために来館しました。美術の授業の一環ということもあり、持参したスケッチブックに芳平のデッサンを模写したり、第2展示室の絵画や写真を熱心に鑑賞したりする生徒がたくさんいました。企画展「宮柊二 言の葉の泉」展についても丁寧に参観していました。

企画展開催記念講演会



6月16日、歌人で歌誌「コスモス」編集人の小島ゆかりさんを講師として「企画展開催記念講演会」を実施しました。演題は「キーワードで読む～宮柊二の短歌と現代短歌～」。講演会では、新潟日報連載の「宮柊二 言の葉の泉」の中から柊二

の短歌を一首選び、現代歌人の短歌とキーワードで結んで解説いただきました。

キーワードは、4月【戦争】、5月【存在】、6月【永遠】、7月【夏日幻影】、8月【命の姿】、9月【猫と孤独】、10月【雨】、11月【リアル】、12月【暮らしの細部】、1月【通俗(芸能人)】、2月【渦】、3月【贈り物】でした。講演会の様子は、魚沼市公式YouTubeチャンネルで配信しています。宮柊二記念館ホームページからご覧ください。

初心者のための短歌講座



お二人の指導者は、毎回たくさんの資料を用意してくださいました。資料のタイトルのみ紹介します。

第1回（6月23日）－テーマ「短歌の基礎知識」

- 資料① 短歌の基礎知識～はじめの一步～
- 資料② 中学生の学びをのぞいてみましょう
- 資料③ 短歌の歴史の基礎知識
- 資料④ 現代短歌の鑑賞～「コスモス」2024年7月号より～

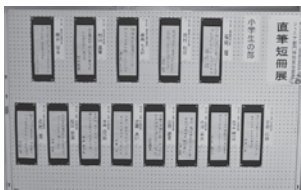
第2回（7月7日）－テーマ「表現の工夫」

- 資料⑤ 基礎知識の復習～定型を意識し、歌を鑑賞してみましょう～
- 資料⑥ 比喩について～短歌を詩的に、個性的に～
- 資料⑦ 擬音語・擬態語～オノマトペの面白さ～
- 資料⑧ 表記方法の選択～漢字、ひらがな、カタカナを味わってみましょう～
- 資料⑨ 短歌を作ってみよう！ ※小出高校出前授業資料
- 資料⑩ 現代短歌鑑賞～個性が光るセレクション～

第3回（7月21日）－テーマ「短歌を作ってみよう」

- 資料⑪ 表現の工夫復習～表現方法と歌づくりのポイントについて～
- 資料⑫ 名詞の効果～具体的にイメージしやすくなります～
- 資料⑬ 現代短歌の鑑賞～いろいろな題材の歌で味わいましょう～

第29回宮柊二記念館全国短歌大会 ジュニア部門入賞者短冊展



7月2日から8月31日まで、第29回宮柊二記念館全国短歌大会ジュニア部門入賞者短冊展を開催しました。

小学生の部・中学生の部・高校生の部の特別賞（最優秀賞・選者賞・魚沼市長賞・新潟日報社賞・宮柊二記念館長賞）受賞者に自身の受賞歌を書いていただいた短冊を展示しました。なお、第30回大会に向けた作品づくりの参考にしていただくため、小・中・高校生は入館無料としました。

令和7年度も同時期に第30回宮柊二記念館全国短歌大会ジュニア部門入賞者短冊展を開催する予定です。

短歌出前授業－小出高等学校



7月17日、新潟県立小出高等学校に出向いて3年生を対象に短歌の出前授業を行いました。講師は、歌人の田宮朋子さん、コスモス魚沼勉強会の内山真由美さん、眞島陽子さんです。生徒は、事前に行った短歌を講師の指導を受けながら推敲していきます。3曲目4首目に挑戦する生徒もたくさんいました。

授業は、宮柊二の短歌「夢に立つ山紫水明雪しろき八海山と清き魚野川」の朗読から始まります。小出高校は、校舎のわきを魚野川が流れ、窓からは八海山が望めます。生徒と短歌の距離がぐんと近くなる瞬間です。

広報・販売活動

「FMうおぬま」での宮柊二記念館事業紹介

魚沼市を放送区域としているコミュニティ放送局『FMうおぬま』で、4月・6月・7月・9月・1月の各月2日間、宮柊二記念館の事業紹介を行いました。担当のパーソナリティーとやりとりしながら、放送日以降に実施する展示会や講演会などの案内をしました。昨年度に続く2年目の取組です。

コスモス全国大会・コスモス新潟支部大会 での宮柊二記念館書籍・グッズ販売

5月5日～6日のコスモス短歌会全国大会と7月15日のコスモス短歌会新潟支部大会の会場で、宮柊二の歌集やアルバム、コスモス創刊号（復刻版）、宮柊二記念館オリジナル短歌手帳・檜のしおり・魚沼産ブナのしおりなどを販売し、ご好評いただきました。お手伝いいただいた眞島さんありがとうございました。

令和6年度事業② 令和6年度に実施した事業をご紹介します。

宮柊二記念館－施設見学等

魚沼市新任教職員フィールドワーク

魚沼市教育センターでは、魚沼市に初めて勤務する教職員に地域を知ってもらうため「魚沼市内フィールドワーク」を実施しています。8月8日、フィールドワーク参加の教職員42名に来館いただきました。

宮柊二の生涯をまとめたDVD「短歌はわが生の証明」視聴後、宮柊二記念館が実施している短歌出前授業や短歌大会など市内の学校が参加している事業を説明しました。その後は企画展・常設展・短歌大会短冊展を鑑賞いただきました。

魚沼市小学校長会巡検研修

11月12日、魚沼市内の小学校8校の校長先生に地域巡検の一環として来館いただきました。

まず、宮柊二の生涯をまとめたDVD「短歌はわが生の証明」の視聴。そして、宮柊二および宮柊二記念館と市内学校の関わり（校歌作詞・出前授業・宮柊二記念館見学・宮柊二記念館での職場体験等）や短歌大会学校賞の記録の説明後、企画展・常設展・短歌大会短冊展を鑑賞いただきました。

宮柊二講座（講演会）



7月28日、歌人で「コスモス」選者の田宮朋子さんを講師にお迎えして宮柊二講座を開催しました。演題は、「『言の葉の泉』を読む」です。

新潟日報連載の「宮柊二 言の葉の泉」の中からキーワードに合わせて柊二の短歌を各月二首ずつ選び、解説いただきました。

キーワードは、4月【励ましの歌】、5月【蠟燭】、6月【哺乳類】、7月【哺乳類以外の動物】、8月【子どもを詠む】、9月【文学作品】、10月【自己省察】、11月【短歌の師】、12月【望郷の歌】、1月【ユーモアの歌】、2月【戦地の歌】、3月【柊二の原点】でした。講演会の様子は魚沼市公式YouTubeチャンネルで配信しています。宮柊二記念館ホームページからご覧ください。

短歌出前講座－堀之内小学校



9月2日、魚沼市立堀之内小学校で短歌の出前授業を行いました。6年生36名、5年生32名、4年生41名の児童の短歌づくりを手伝います。

講師は、コスモス魚沼勉強会7名の皆さんです。各学年とも児童5～6名のグループに1人ずつ入って指導いただきました。グループごとの学習の後、各班代表から自作の短歌を発表してもらい、みんなで鑑賞しました。

堀之内小学校では、3年生になると宮柊二記念館を訪問して短歌について学びます。そして、4年生から3年間この短歌出前授業に参加して短歌をつくり、できた短歌は宮柊二記念館全国短歌大会に応募しています。

宮芳平デッサン展



9月1日から10月31日まで、宮芳平デッサン展を開催しました。令和元年度に寄贈いただいた100点余りのデッサンを順次紹介しています。今年度の展示は人物と植物のデッサンです。

宮芳平（1893～1971）は、宮柊二の叔父で、旧制柏崎中学校卒業後、東京美術学校西洋画科で学びました。長野県諏訪で高校の美術教師となり、生徒を指導しながら風景や家族の肖像などを描き続けました。森鷗外の短編小説「天龍（てんちよう）」のモデルになった画家です。

第30回宮柊二記念館全国短歌大会 選者・入賞者 色紙・短冊展



11月16日から1月19日まで、令和6年度第30回宮柊二記念館全国短歌大会選者・入賞者色紙・短冊展を開催しました。

選者の久々湊盈子さん、鈴木竹志さんからはご自身の歌を色紙に揮毫いただきました。一般部門とジュニア部門の特別賞入賞者からは、各自の入賞歌をそれぞれ色紙と短冊に書いていただきました。併せて、秀逸と佳作の作品も紹介しました。

宮柊二デスマスク展



12月11日の宮柊二命日を挟んで、3日から15日まで宮柊二のデスマスクを展示しました。

宮柊二が自宅書斎で使用していた机、眼鏡や硯など愛用の品々を常設展示している第2展示室の最奥部、柊二の机の隣に展示しました。毎年この時期に欠かさず訪れてくださる方々に感謝申し上げます。

短歌セミナー（講演会）

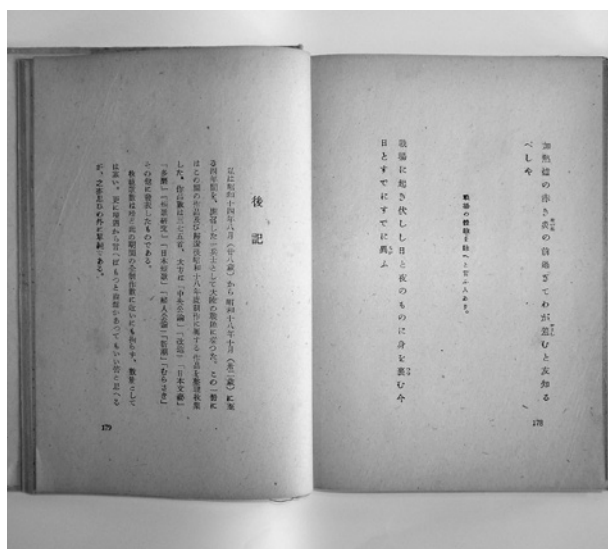


1月19日、歌人で「コスモス」選者の橘芳園さんを講師にお迎えし、短歌セミナーを開催しました。演題は、「日記巻頭にのしした先生の歌」。自身の日記の巻頭にのしした、宮柊二・安立スハル・島田修二・斎藤茂吉の歌を解説していただきました。

宮柊二の歌については、高野公彦氏の著書『歌の魅力の源泉を汲む』から「柊二の歌は『私はかう生きた。貴方も頑張ってください』と励ましてみやうに見える。いはば、励ましの文学と言へさうだ。」という部分を引用しながらその魅力を語って下さいました。

令和5年の春、宮家からたくさんの資料を寄託いただきました。

その中から61号で紹介した歌集『群鷗』に続いて歌集『山西省』の原稿をご紹介します。



歌集「山西省」
最終ページと「後記」冒頭部分



歌集「山西省」原稿
最終ページと「後記（後書）」冒頭部分

宮柊二記念館紹介動画公開のお知らせ

宮柊二記念館を紹介する動画を作成しました。企画展「宮柊二 言の葉の泉」展（前期展示）、「常設展」などの様子もご覧いただけます。YouTube「新潟県魚沼市公式チャンネル」で公開しています。宮柊二記念館ホームページからご覧ください。

「宮柊二記念館短歌教室」のお知らせ

「宮柊二記念館短歌教室」の参加者を募集しています。講師は「コスモス」選者橋本芳樹さんです。四月・八月・十二月を除く年九回、原則として毎月第二日曜日に歌会を開催します。年度途中からの参加、添削のみの参加も歓迎します。年会費は3,000円です。詳細は、宮柊二記念館にお問い合わせください。

「宮柊二記念館友の会」のお知らせ

宮柊二記念館の活動支援と会員相互の交流を目的とする「宮柊二記念館友の会」の会員を募集しています。会員は、宮柊二記念館への入館料が免除されます。また、記念館だよりや各種のお知らせが届けられます。年会費は1,000円です。詳細は、宮柊二記念館にお問い合わせください。

宮柊二記念館ホームページでの動画公開について

宮柊二記念館では、講演会等の様子をYouTubeで配信しています。宮柊二記念館のホームページからご覧ください。

「企画展開催記念講演会」については、高野公彦さん、桑原正紀さん、小島ゆかりさんの講演を配信しています。「宮柊二講座」については、田宮朋子さんによる講演を令和二年度分から、「宮柊二記念館全国短歌大会」表彰式は、令和三年度分からご覧いただけます。

宮柊二記念館だより 第62号

発行 2025. 3. 20

問合せ 宮柊二記念館（〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6） TEL・FAX 025-794-3800

メール miya-museum@city.uonuma.lg.jp ホームページ <https://www.city.uonuma.lg.jp/site/miyashuji/>